

戦後安城市の産業構造の変化

安城西中学校 二年 山下美羽

① 動機・目的・予測

私の家の近くには新しく2つのマンションが建つ。ここ最近、安城にはたくさん建物ができている。が、1960年代の安城の地図と比べると、ほとんどが田畑のように見える。

以前は、農地だったところに建物が建設されるということは、農業以外の産業が生まれたと、ということが予測できる。

このことから私は、安城市がどのようにして現在の形に発展してきたのか、1960年代から現在にかけて産業に焦点をあてて調べてみようと思った。

写真①



廃止直前の安城支線 (1961年5月1日)



写真②



現在の安城駅周辺

② 調査方法

インターネットから情報を収集したり、アンフォールで図書を借りた。本やグラフ、写真を見て当時の事実を確認し自分なりの考察をした。

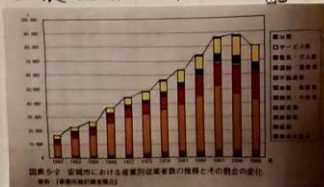
③ 考察・結果

(1) 農業地域から工業地域へ

写真①②の通り、安城市は明治用水通水後(1880年)米麦や果樹、蔬菜養鶏などの多角経営により、「日本テンマーク」と認知されるに至り、全国有数の農業先進地域として発展してきた。

しかし、戦後の高度経済成長期を通じて工業都市として変貌を遂げるることとなる。

(1) 製造業の発展



図①は産業別の従業員者数の推移である。まず表1から1960年において最も多い部門は製造業(55.1%)である。製造業は1999年に至るまでこの産業よりも高い数値を保ってきた。

ではなぜここまで製造業が盛んになったのか。

考えられる理由をいくつか挙げた。

理由①

まず国道23号線の開通である。実際に調べてみると1975年に起点が四日市から豊橋市に変更されており主な経由都市には安城市も含まれている。このことからインフラが整備され大型トラックなどが入

りやすく、発展の助けになったと考えられる。

理由②

2つ目の要因は東海道新幹線の開通である。現在、東海道新幹線は三河安城駅に停車する。これは1988年に建設されたものであり、在来線も相まって交通の便の向上、つまり人の流れができたと考えられる。表1を見ても、1980年から1991年までに製造業だけでなく、他の産業の従業員も約1万人増加していることがわかる。

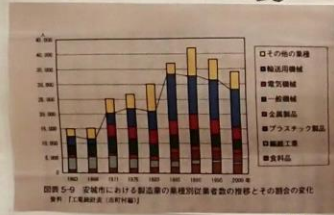


これらの理由から製造業が発展したのは、急速に拡大したインフラ整備のためと考えられる。

(2)自動車産業

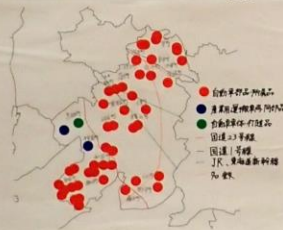
安城市の工業化に最も貢献していたのは、自動車産業である。現在安城市にはトヨタやデンソーなどのグループ会社や下請会社、工場が多く存在する。安城市は1980年代後半、西三河地域の自動車産業の興隆とともに自動車産業に関連した工場が次々と設立された。

図②



図②を見ても、1971年から少しずつ輸送用機械部門が増えていき、1985年でピークを迎えている。増加率が最大なのは1980年から1985年にかけてで、その後は大きな変化もなく、安城市の工業化が定着していったことがわかる。

図①



図③は参考文献内の表を安城市の地図に落としこんだものである。安城市内で輸送用機械に分類される工場群のみを抽出してのつけ表。これらの工場群は製造品名からわかるようにほとんどが自動車産業に関連した協力会社であると考えられる。

ではなぜ自動車工業は1980年代後半から現在まで発展してきたのか。

理由①

インターチェンジ付近に工場が建設されたからだ。前の「製造業の発展」でも記したように国道23号線などのインフラが整備されたことで製品の輸送がより便利になったと考えられる。

理由②

安城市の地理的要因である。安城市に隣接する豊田市や刈谷市には前述にあるトヨタ(当時)やデンソーの本社があり近隣の市町村にはそれらの工場などがある。安城市はそれらの場所に製品を届けるには輸送コストカットの点から最適な場所であった。

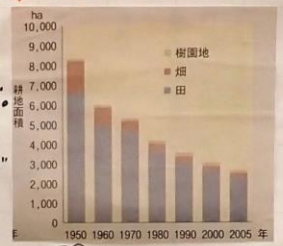


これらの理由から自動車産業の急速な発展はインフラ整備や安城の地理的優因が影響したと結論づけられる。

(2) 農業が減少したことによる影響と改善

① 高度経済成長期以降の農業
 現在、「日本のデンマーク」と称される安城市。
 しかし戦後の高度経済成長期以降、工業が発展し農業は衰退していった。その原因は農業における労働力の流出である。
 安城市の近代化にともない若者が離農し、必然的に農業就業者が高齢化していった。また兼業農家も増えたことにより収穫される作物も減少した。

右の図④、図⑤は耕地面積の割合と類別収穫面積の推移だ。この2つの資料を見ても農業が急速に減少していることがわかるだろう。



図④



図⑤



また農業が行われず、余った土地は工場や市街地が建てられ、ますます発展は困難になった。

農業の減少は同時に環境問題を引き起こした。豊かな農地ではなく、建物や工場が劣くなることで騒音公害、ゴミ問題などの公害が発生した。
 農業の衰退は、安城市民の生活にさまざまな形で大きな影響を及ぼした。



▲公害問題(騒音公害)

② 農業復活へ
 図⑥は安城市の農業が衰退の問題に対してどのような対策をとり、変貌を遂げていったのかを示す図である。しかし、この図だけではわかりにくいので説明を加える。



*1 農業は農業以外の仕事に転じる農家のこと。

図⑥

兼業農家が増え、農業が後退する最中、他方で一部の農家を中心とした大規模な^{水稲}の**集団栽培**が行われた。

その目的は水稲の**増収**と集団栽培に参加した農家の**技術水準の向上**である。

これにより兼業農家の技術は**専業農家のレベル**に引き上げられた。次第に**集団栽培は近代化**にともない**機械化農業**へと発展し**省力化**、

増収の効果を示した。

1980年代から集落の**農地を集め**、大規模に農業を行ったり、「**生きがい農業**」、「**やりがい農業**」と呼ばれる兼業農家や**高齢化農家群**が自らの**経営資源**に見合った**園芸農業**が発展し**イチジク**、**梨**などの生産が盛んになった。

※2 兼業農家、その収入の大部分は農業以外の農家



③ 結論

宇城市は戦後急速な**インフラ整備**の発展で**製造業**が盛んになった。

特に**自動車産業**が活発であり、その理由は**デング**、**トヨタ**の下請**会社**や**工場**が多く宇城市に設立したからである。

しかし宇城市の工業化にともない農業は衰退していった。

農業は**労働力不足**した分、水稲の**集団栽培**で農家の**技術水準の向上**や**機械化農業**を行い**省力化**、水稲の**増収**を測った。

1980年代からは農業のやり方が大きく変わり、集落の**農地を集め**大規模な農業を行ったり**園芸農業**が発展した。

このような産業の移り変わりを経て宇城市は現在、「日本の**デング**」と呼ばれるながらも工業化も**両立した市**となった。

④ 感想

今回このような研究をするまで宇城市の産業は**農業が有名**だとす、と思っていたが、調べてみると**工業と農業が両立する市**だとわかった。他県にも似たような市町村はあると思われるが、宇城市は幸運にも隣の市に日本を代表する企業が存在する市なので豊かで**インフラ整備**もより充実していると思う。

私は今後も宇城市が**農業、工業を両立した住みやすい市**を保ちながら**更なる発展**を目指してほしいと思、た。

⑤ 参考文献

・宇城市史4 通史編現代

・<http://ja.wikipedia.org> ・<http://toyota.jp>

・<http://www.city.y.d.nj.o.g.ic.hi.jp> ・<http://www.homemate.co.jp>